



どんなとき詩を読みますか？

「二十億光年の孤独」や「生きる」など、親しみやすい詩で知られる詩人の谷川俊太郎さんが、昨年11月13日に亡くなりました。1931年に東京で生まれた谷川さんは、高校時代に詩を作り始め、1952年、詩集「二十億光年の孤独」を発表し、デビューしました。鋭い感性から生まれる表現やテンポのよいことばあそびなどが特徴で、半世紀以上にわたり多くの作品を発表し続けてきました。

みなさんも、国語の教科書などで谷川さんの詩を読んだことがあるかもしれません。私自身も小学生のときに、世界中で朝を迎える様子を描いた「朝のリレー」を読みました。その詩から、世界はものすごく広いけれど、朝はどこかにつながっていて、自分と世界のどこかの誰かもつながっているんだという感覚を持ったことを覚えています。また同時に、不安で眠れない夜があったとしても、朝は必ずやって来て、自分が受け取った朝をまた知らない誰かに渡すことができるんだと、前向きな気持ちにさせてくれました。

今年度も残すところあと少しです。どんな1年だったでしょうか。楽しいことばかりではなかったかもしれません。それでも、毎日朝のリレーを頑張ってきたみなさんに谷川さんの詩を届けたいと思います。

朝のリレー 谷川俊太郎


カムチャッカの若者がきりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は朝もやの中でバスを待っている
ニューヨークの少女がほほえみながら寝がえりをうつとき
ローマの少年は柱頭を染める朝陽にウインクする
この地球ではいつもどこかで朝がはじまっている
ぼくらは朝をリレーするのだ
経度から経度へと
そうしていわば交替で地球を守る
眠る前のひととき耳をすますと
どこか遠くで目覚時計のベルが鳴っている
それはあなたの送った朝を
誰かがしっかりと受けとめた証拠なのだ



スクールライフアドバイザー来校日（相談時間 10:00～16:45）

2/7(金) 2/14(金) 2/21(金) 2/27(木)



 電話による相談もできます。教育相談室直通の電話（青年期の探究の最後のページに記載しています）を利用してください。